

## グローバル語り部講演会

- 1 目的 (1) 生徒の国際理解教育や、国際的な職業への関心を喚起し、海外留学への機運を高めるとともに、グローバル化に対応した人材の育成を図る。  
(2) 「国際探求」で取り組んでいる国際的な諸問題について現地の体験をもとにしたお話を実際に聞く機会を持つ。
- 2 日時 平成30年12月19日(水)9時30分～11時35分
- 3 場所 兵庫県立尼崎小田高等学校 B棟3F 視聴覚教室
- 4 対象 国際探求学科 2年1組 40名
- 5 内容 グローバル語り部講演会『『障害者はいないほうがよい』という思想と尊厳死』  
講師：早稲田大学人間科学部 野崎 泰伸様  
9:30～ 受付(事務室)  
9:45～10:35 講演  
休憩(10分)  
10:45～11:35 講演及び質疑応答

本校では2学年を対象に兵庫県英語ディベートコンテストと同一論題で英語ディベートを行っている。今年度の論題は「Resolved: That Japan should legalize voluntary active euthanasia. 日本国は、本人の意思による積極的安楽死を合法化すべきである。是か非か。」である。

講師の野崎泰信氏には医療技術の進展とともに世界各地で議論されている死の在り方について、欧米や韓国の事例、「Not Dead Yet」の活動について報告いただいた。また日本での尊厳死についての議論の動向や法制化の意味など、日本の実情を深く掘り下げて講演いただいた。欧米では「無益な医療」論が語られる現状があり、安楽死先進国ベルギーでは年々安楽死による死者が増加している。このような現状に対して、健常者中心主義の中での尊厳死(法制化)の危険性について、専門家の立場から論点を整理しながらお話しいただいた。

### 6 成果

世界各国で共通の課題となっている安楽死問題は人間の尊厳や生き死ににかかわる、本質的な問題である。このような本質的なテーマについて英語で議論できることは将来グローバルな世の中で活躍するために必要となる素地であるといえる。その議論に必要な世界の実情、日本の現状について詳しく知ることができただけでなく、積極的安楽死について特に否定側の立場からの論点を詳しく提示していただいた。参加した生徒からも、「安楽死を選べる『自由』がいつの間にか『義務』になってしまうという言葉が深く心に残った」というような感想が多く得られた。今後の英語ディベート活動の際の重要な哲学が得られる貴重な機会となった。